

□平成 26 年度自然史博物館活動の評価について

(群馬県立自然史博物館専門委員 中村 修美)

博物館の使命とそれを実現するための事業方針が示され、その事業ごとに「活動目標の評価指標」に基づき事業評価を行い、課題や改善点を把握している。博物館活動の評価は適切に実施されている。

博物館は標本（実物資料）を有しているのが特徴である。博物館活動を行っていけば、否応なく標本は増加していく。すでに検討されているが、将来的な資料の受入と保存管理の計画を進めていただきたい。また、収蔵している資料は、将来へ残すべき県民の財産でもあり、学術上の貴重な標本でもある。保管・管理を確実に行うとともに、館としてだけでなく館外の方の利活用の考慮もお願いします。そのためにも、データベースの整備と公開は必須であり、今後も着実に進めてください。

収蔵されている資料は、温湿度管理、日常点検、燻蒸等により安全に管理されている。資料管理に当たっては、日々の I P M（総合的病害虫管理）が重要なので、日常点検の内容を再度見直すとともに、確実に日々実施していただきたい。

博物館には各方面から多様な要望が寄せられていると思う。実際、多様な事業を実施されている。しかしながら、職員数や専門分野により、その持っている能力・受容力以上の要望が寄せられることもあるだろうし、対応困難なことも多いと考えられる。博物館が持っている能力・受容力を考慮し、今後ともバランスのとれた効率的な博物館活動を進めてください。

(平成 27 年 11 月)